



今の市大に足りないのは広報力。諸問題を解決し、今後とも各団体、及び個人の相互交流を促進していくためには、あらゆる情報を全学生が知って考える必要があり、代表者だけが情報を持っているはだめだ。学生広報団体Hijichoでは是非とも市大の弱点を補いたい。

応援団は大阪市立大学を背負っている

2011年3月12日（土曜日）18:00、難波の味園という宴会場で、大阪市立大学応援団第48代団員の卒団式が行われた。僕も昨年度は応援団には非常にお世話になっているのでその場に出席させてもらったわけだ。味園に到着すると係の方に本会場の個室まで案内された。そこには、応援団の皆様とそのOBさんの方々が着席している。そして体育会本部、文化系サークル連合、音楽系サークル協議会、大学祭実行委員会、など市大内に存在する各自治体の幹部たちもこの式典に招待されている。しばらくして定刻となりセレモニーがはじまる。

しかしながら気を確かにもつことはなかなか容易なことではない。ご存じの通り、前日11日（金曜日）東北地方沿岸沖で大地震が発生し、もはや日本全国で絶望、落胆、不安、慌ただしく日本全土が沸き起こっている時である。ましてや前日。ただ事ではない。卒団式会場も“こんな時に宴会をしていてよいのか”という雰囲気が少なからず漂っている。が、式典のプログラムは進行する。応援団幹部交代はすでに終えているので新たな第49代団長（遠藤諒人）の挨拶からはじまり、各自治体の代表者も挨拶をしていく。——心から卒団おめでとうございませうと思った。ありがとうございました。と思った。だが同時に震災のことが頭を離れることはない。皆そうだろう。プログラムは進む。

現幹部たちの挨拶から少し時間をおいて卒団される第48代応援団幹部の方々が順番に挨拶をしていく。自身が当時1回生だった頃を回想しつつ4年間の思い出を感慨深く語ってくださった。最後は48代団長の中川浩志さんの挨拶である。団長の挨拶はとても心に響くものだった。『私が応援団に入団したのは新歓でもてなされたからではなく、先輩方の人間的な魅力にひかれたからである。だから、新入生の歓迎は作戦を練るよりも、自分自身をもっと磨くことだ。人間的魅力が高ければ新入生はおのずと入ってくれる。いつもやれる最大の応援は、自分を磨くこと、自分の性分を全うすることだ。』いつも、どんなときでもやれる応援は自分自身を磨くこと、自分の性分を全うすること。この瞬間、会場の空気は変わった。さすが団長だ…と僕も思った。今すべきことを真撃にやったらいい。ボランティアをする団体はボランティアを、勉強する人は勉強を、応援団は応援を、その行為はめぐりめぐって多くの人たちに影響を与える。今は卒団式だ、会場全体のみんなで心から笑い、感謝し、感謝され、そんな素敵な空間を楽しまなくては。そんなことを浩志さんは言いたかったんだと僕は感じた。東日本ではいま大変なことになっているけれども、せめて関西にいる僕たちは心を強く持ちたいものである。——応援団は大阪市立大学を背負っている。その大阪市立大学には存在する最大規模の学生団体“四者連絡協議会”がある。応援団はこの四者連絡協議会の一角なのだ。

四者協＝加盟団体に所属する全ての学生

応援団の応援と言えば野球やラグビーなど体育会系のクラブの応援をイメージしてしまうが、体育会系のクラブだけでなく文化系サークルや音楽系サークルの発表会等にも駆け付けてくれている。さらに「応援」だけではなく、新歓、大学祭、ポート祭、三商大戦など、市大で行われる様々な「企画」にもスタッフを派遣してイベント作りにも関わっている。しかしこれら様々な企画はもちろん応援団だけで運営しているわけではない。大阪市立大学には様々なクラブやサークルが存在するが、カテゴリ別に「体育会」「音楽系サークル協議会」「文化系サークル連合」という自治体が存在し、この3つの自治体と「応援団」を合わせて「四者連絡協議会」（略して四者協）とよんでいる。ここで注意すべきは、各自治体の幹部たちが四者協というわけではなく、上記各自治体に加盟している部員は全員四者協の一員である、という点である。そして四者協を構成する各自治体から四者協をとりまとめるために選出されたのが四者協執行部であり、この執行部が一丸となって諸所の運営にあたっている。高校までの生徒会のようなもの、と表現すればわかりやすいだろうか。

大学側との折衝権をもつ唯一の学生団体

読者の中には「なぜ異なる活動をしている4つの団体が一つにまとまって行動する必要があるのか？それぞれの活動だけでよいのではないのか？」と思われる方もいるかもしれない。四者協がまとまって行動することの最大のメリットは、「多くの団体が集まることで、様々な問題を解決できる」ことにあるのだ。クラブ・サークル活動等の自治活動においては、個々の団体の扱範囲を越えて、多くの団体が関係してくる問題がよくある。例えば大学からのサークル活動援助予算、新歓期の勧誘活動、サークルへのBOX割り当て問題等がそれにあたる。これらの問題は個々のクラブ・サークルの枠を越えているため、みんなで話し合っ方針を作ってゆく必要がある。よって、四者協では総会で大きな方針を確認しつつ、個々の問題についてはそのつど各クラブ・サークルから代表者が集まって意見調整会議で協議している。そこで各サークルから出された意見によって、四者協は

運営されている。そして、問題によっては各クラブ・サークルで協議したことをもとに、大学側に要望を出して交渉してゆくこともある。その時も「多くの団体の意見が集まっている」ということが非常に重要で、特に予算については毎年個別のクラブ・サークル単位ではなく、四者協全体として要求し続けてきた結果、現在の額に達しているのである。このように四者連絡協議会は大学側との折衝権をもつ唯一の学生団体である。例えば「学費高すぎるから下げて」「学情24時間開けて、日曜も開けて」「踏み切りいらない」など、ひとつのサークルでは相手にしてもらえないが、四者協ならば公式に交渉の場を整えられるということである。

単なるクレーマーにならないで

四者協執行部は執行部会議を頻繁に行い、全団体の代表が集う四者協総会や意見調整会議をもってして四者協の意思決定の最高機関としている。執行部会議はおおよそ週に1回のペースで行われているが、新歓期などイベントが集中して忙しい時はほぼ毎日大学に来て会議を行っている。3月は特に忙しい。読者の中には意見調整会議に出席しているクラブやサークルの代表の方もおられることであろう。最近では3月17日に811教室で意見調整会議が行われた。議題はもっぱら新歓イベントである。つい最近も前期入学手続き日（3月15日）に1号館側キャンパスに多くのクラブ・サークルがブースを出し、新入生を相手に様々な形で勧誘活動を行っている。しかしこの日というのは言わば新入生の取り合い、戦争である。華やかな新歓日の裏では、四者協執行部の当日までの陳情処理などの影の努力があることを僕たちは知っておかなければならない。こうしたイベントが当たり前に行うことができているということに、まず感謝をするべきであろう。「そんなこと聞いてないですよ！」「運営者しっかりしろよ」などという単なるクレームは、発言するのは構わないが、それに対する改善案や代替案を一緒に考えてほしい。執行部は皆の代表として皆の利害の調整を行い、大学側に学生の意見を届けてくれている。その行為がスムーズに行えるように我々は執行部に文句を言うのではなく、共に悩み共に改善案を考えていく必要がある。四者協とは執行部の4人だけではないのだ

から。大学と対峙することはありえても、四者協はあなたたちであり、仲間であるという点を勘違いしてはいけない。

およそ60の団体が参加！【4/7&4/12】

クラブ・サークル合同説明会

新入生にとってこの時期のサークル選びは、その後の大学生活の行く末を方針づける重要な時である。もちろん既存のサークルに入らず、己の道を突き進むのもよい。学外の学生団体を覗くのもよし、学外のボランティア活動に励むのもよし、夢に向かって勉学に励むのもいい。バイトに明け暮れるのも青春。――が、僕は大阪市立大学に存在するクラブ・サークルをお勧めしたい。なぜか？大阪市立大学のことを好きになってほしいからである。卒業する際に、いい大学だったなと思ってほしいからだ。この大学に入学できたことを誇りに思い、大きな充実感をもつには、自身が属する空間の文化的素養である歴史を構築していく歯車の一つに自身が貢献できたことを実感することだ。あなたが属している空間は大阪市立大学である。それならば、大阪市立大学の歴史を構築する歯車になることだ。これは地元愛である。故郷が、はたまた日本が好きなのは自分がそこで育ってきたからである。同様に大阪市立大学の名の下で大学生活を謳歌することで誇りが芽生える。これに勝る青春はない。そしてそのためにはクラブ活動・サークル活動が最も適している、と僕は思う。

(中野寛之)



from Editor

この合同新歓イベントは、従来の各団体が新入生を引っ張ってくるものと違い、新入生が各団体の元へ足を運ぶという点で革新的だ。

この試みは四者協にとっても初めての試みだ。当日参加する団体の学生は、四者協執行部を含め互いに助け合って、是非このイベントを成功させてほしい。

我々 Hijicho も当日参加する。



Twitter & Contact

学生広報団体Hijicho
Twitter @hijicho
hijicho@gmail.com
<http://hijicho.com/>

四者協主催クラブ・サークル合同説明会

4月7日・12日 16:30～18:30

スクリーン発表教室 810教室～811教室
ブース発表教室 83A教室～83H教室

スクリーン発表教室では、プレゼンテーションには40～50の団体が各10分程度で参加予定。
ブース発表教室はそれ以上が参加。

新入生は途中入退出が可能で、どの団体が何時から始まるのかを載せたプリントが予め用意される。